

# ななかまど

令和4年5月1日(日)  
第46号  
一般社団法人  
猿 払  
ななかまどの会  
会 報

## 疫病、戦争、自然災害、事故

### 新型コロナ、ウクライナ戦争、地震、水害、沈没事故 まるでノストラダムスの大予言のよう

「一九九九の年、七月、空から恐怖の大王が降りてくる。アンゴルモアの大王を復活させるために、その前後の期間、マルスは幸福の名のもとに支配に乗り出すだろう。」

これは「ノストラダムスの大予言」の一説です。一六世紀のフランスの医者であり占星術師だったがノストラダムスが「詩集」として出版した予言集の一節です。(もちろん日本語訳ですが)。

一九九〇年代は、二十世紀最後の年の七月に地球が滅亡するか、予言が実現するか、世界中で関心が持ち上がりましたが、結局何も起こらないで二十一世紀を迎えました。それから二十数年。

毎年繰り返される集中豪雨。震度五以上の大型地震。

発生してからまもなく二年、未だ終息しない新型コロナ感染症。蔓延防止等措置が解除されてもいっこうに新規感染者は減りません。

また、二週間で終わるとウクライナに軍事侵攻したロシア。二ヶ月たった今も続いています。ウクライナの国民は自国を「侵略から守る」と徹底抗戦の構えです。業を煮やしたプーチン大統領やラブロフ外務大臣は「核兵器」の使用をちらつかせ、支援を続けるNATO諸国や米国を恫喝しています。

予言の「アンゴルモアの大王」を核兵器に、「マルス」をプーチン大統領に置き換えると何か世紀末の予言と同様に感じられます。

唯一の被爆国の日本人だから

### 核兵器の使用は

### 絶対反対

日本には二発の原爆が投下されています。広島と長崎。原爆の怖さは大量殺人兵器ということもありますが一瞬で生活と社会、人間を消滅させてしまうこと。絶対許せません。

原爆詩集、峠三吉さんの「にんげんをかえせ」より

序(にんげんをかえせ)

ちちをかえせ ははをかえせ

としよりをかえせ

こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしに

つながる

にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよ

のあるかぎり

くずれぬへいわを

へいわをかえせ

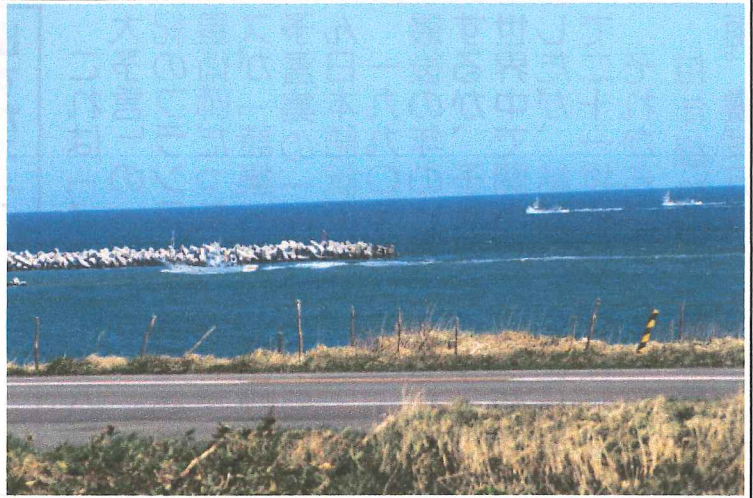
障がい者を増やす

### 戦争反対



## にんにく順調に育ってます

ななかまどの会  
の生産活動の一つ  
に「にんにくの生  
産」があります。  
村営牧場の一面を  
お借りして昨年秋  
に二千五百株ほど  
植えました。冬を  
越してすくすくと  
育っています。  
障がい者の社会  
参加の一環として  
設立当時から続け  
ています。  
昨年養護学校の



職場実習で確信した事です  
が、種植えや収穫の他、実を  
ばらしたり皮を剥いたりする  
作業も障がい者にむいている  
と思いました。  
収穫したにんにくは乾燥さ  
せ、「黒にんにく」として販  
売します。昨年度は二百パッ  
クを完売しました。  
あと三ヶ月ほどで収穫とな  
ります。今年も黒にんにく  
は何パックできるでしょう。  
秋が楽しみです。

## 稚貝まきも終盤、 海に活気が戻って きました。

楽遊館でパンを作ってい  
ると「稚貝まき」で往復す  
るホタテ漁船が目に見えま  
す。稚貝まきもうそろそろ  
の終わりです。稚貝は道内  
のあちこちの生産者から買  
ってきてピストンでまき四  
年後の収穫に備えます。稚  
貝をまくことによって天然  
貝も増えるんだそうです。  
三月、毛ガニ漁が解禁に  
なりました。この時は猿払村  
に一斉に活気が戻ります。  
今期初ものの毛ガニとホ  
タテ頂きました。ごちそう  
さまでした。



パンの  
注文は  
毎週火曜日×  
切り金曜日に  
配達  
FAX 4-7111

訪問販売もや  
ってます。



雀たちがや  
って来ま  
す。近くで  
カラスが様  
子を伺って  
ます。  
本当に  
猿払村は  
野鳥が多  
いです。

昨年春  
に放課後  
塾で設置  
した巣箱  
とバード  
テーブル。  
巣箱に  
はヒガラ  
が巣作り  
を始めた  
ようです。  
子ども達  
はバード  
テーブル  
ばかりで  
なく近く  
で鳥を観  
察しようと  
ベランダ  
の前に餌  
をまきま  
す。それ  
をめぐり  
てカワラ  
ヒワや

